

いちかわ 市史編さんだより

第7号

発行：市川市文化国際部映像文化センター

発行日：2012年(平成24年)1月24日 第7号

《市史編さん コラム》

「ツバメはどっこいたくましい？」

専門員 福士 融



石膏で補強された名作？

市民が身近に感じ、親しみをもたれているツバメについて、市史編さん自然部会では昨年の春から夏にかけてツバメの営巣調査を市内全域で行ないました。

ツバメは春に東南アジアから渡ってきて、卵を産んで雛を育て、秋にはまた帰って行きます。ツバメは人が頻繁に出入りする場所に巣を造り、カラスや蛇などの天敵から卵や雛を守る生活の仕方を身につけたといわれています。

最近は商店街の賑わいが減り、シャッターを降ろしたままの店も目立ちます。それに合わせたように、商店街などで集団営巣するツバメが減っているようです。しかし市街地のマンションや、郊

外の新しい住宅地で営巣するツバメが増えている印象でした。中には新築間もないお宅に巣を造ったりしていて、家主に同情したくなるような例もありました。

巣を造るには泥が必要です。子育てをするには餌が必要です。天敵をうまく避けるだけでなく、良質の泥、豊富な餌をできるだけ近くで得ることはツバメにとって非常に重要なはずですが、田んぼが無くなり、湿地や草地や林が減れば、ツバメの営巣場所に変化があるだろうことは容易に想像できます。

カラスの巣に針金製のハンガーが多量に使われるようになったことは良く知られていますが、ツバメだって良質の泥が手に入りにくくなったらどうするでしょう。車庫の蛍光灯の上やコンビニの防犯灯の上などに造られたやや粗末な巣、雛の重みで壁から剥がれ落ちた巣などを見て、最近のツバメの手抜きと考えるのはツバメに失礼かもしれません。

イワツバメではないのに市営住宅の8階に造られた巣、人が一人やっと出入りできるドアがある小さなコインランドリーの中の巣など、ツバメのたくましさの一面も見られ、環境の変化に負けずにがんばれとエールを送りたくくなりました。

今回の調査結果は、都市化による生物の生息環境の変化をみる大切なデータとなり、市史の自然編に反映させたいと考えています。

第7号目次

- 2・《映像文化センター所蔵写真から》情報求む
 - ・市史編さん事業講座・講演会実施報告
- 3・撮影場所が判明しました！
- 4・自然部会からのイベントのお知らせ
 - ・行って知って感じて私達のまち いちかわ【2】

HPでは、「いちかわ市史編さんだより」をカラーでご覧いただけます。